100　モーイ親方（タ）

（ヌブシの玉）

あれは、蛙取っている時に、蛙の頭に丸い玉があったて。そして、先生にね、

「珍しい蛙を取ってあるよ」と言ったから、

「じゃあ、その玉を学校に持って来て見せなさい」と言うたからよ、これはもう手で持ったらあれだからと、口に入れてよ、来たから、学校に行く時に溝があったから、こっち飛ぼうとしたからすぐに呑んでしまってよ。先生が、

「あんた、蛙の玉を持って来たか」と言ったから、

「こんなこんなことで呑んでしまった」と言ったらよ、もう、先生もよ、この人は偉い人で、自分もかなわないぐらいの偉い人になる。

これ、ヌブシの玉といったと。これは知恵作るあれでしょう、玉といったら。この玉を呑んでからはずっと偉くなったと。

類話

字小波蔵　伊敷フヂ子

豊原　国吉マツ